



「憲法を実行することが要求実現にもつながら」—貝塚市職労の職場討議・学習会

今こそ賃上げ、要求高く掲げよう!

秋季年末闘争は「生活の維持・向上」をめざし、当局の雇用者責任を果たさせるたたかいです。異常な国並みの大幅賃金削減や、地域や民間を口実にした賃金制度改悪などの長期間にわたる人件費抑制で、「暮らしも仕事も限界」になっています。

また、全職員の4割となる非正規職員の労働条件の抜本的改善は、住民の暮らしを守る自治体の役割を発揮するためにも切実な要求です。

地方自治や労使自治への政治介入を許さず、これまでの削減を取り戻す職場からのたたかいを進めましょう。



「大手電機メーカーの退職強要は許さないと訴える大原委員長」

「憲法川柳」募集中 (詳細は3面)



映画を観ること、運動を兼ねて知らないまちを歩くのが好きです。選挙支援で各地を歩くのは快感です。堺にも何度も行きました。岸和田・貝塚にも行きますよ

「地域の宝もの」掘りおこしたい

東大阪小規模製造業実態調査で知った厳しい実態とたくましさ



調査票は、対象2900件中1250件から回答を得て、高い回収率(43%)となっています

この10月、大阪自治体問題研究所が取り組んだ東大阪小規模製造業実態調査で、市内を6地域に分けた事業所への訪問活動に参加した岩野さんにお話をうかがいました。

訪問調査で「モノづくりのまち」を実感

モノづくりの現場を直接目にし、事業主や従業員の話は新鮮で衝撃でした。
金属加工をはじめ、自動車、電器、建築、プラスチック、木工、印刷にメッキ、金属工場ばかりのところはケーキ、パン、野菜などの食品工

場もあり、改めて「モノづくりのまち東大阪」が実感できました。

製造業の現場から仕事への熱い思いが

事業主や従業員の話では、「この3人の従業員ののために仕事をやっているようなもの、私ら夫婦は年金生活だ」(検査機器)、「リーマンショ

しい言葉でしたが、仕事への熱い思いを感じました。

「おみやげに」と葉っぱ型のメモ帳を

たくましく経営している事業主の話も聞きました。「金属おし抜きをしていた夫が腰を壊し廃業を考えたが、私の思いつきで、同じ機械での布・紙加工に転換した」と苦勞

ックから、仕事が海外に流れ、単価も下げられ、経営は厳しい(電器部品)、「アベノミクスで潤っているのは一部の大企業だけ、我々のところは関係ない(ねじ加工)など現場での悲痛な訴えに、ただ黙って聞くしかありませんでした。

話。帰り際にその機械で作った「葉っぱ型のメモ帳」をくれました。「メガネに200件の特許を持っている」と応接で30分間熱く語ってくれた社長など、エピソードは尽きません。
この実態調査の準備にかかわっていただいた京都大学の岡田先生が、「地域の宝もの探し」と言われていた意味が少しわかった気がします。